



日本現代文學全集 71

宇野千代
岡本かの子 集

講談社

日本現代文學全集

71

宇野千代・岡本かの子集

編集

伊藤 整
龜井 勝一郎
中村 光夫
平野 謙
山本 健吉



初版 第1刷

昭和41年2月19日

増補改訂版 第1刷

昭和55年5月26日

著者 宇野千代
岡本かの子

装幀 蟹江征治

發行者 野間省一

發行所 株式會社 講談社

印刷 豐國印刷株式會社
製本 加藤製本株式會社

東京都文京區音羽 2-12-21

郵便番號 112

電話東京03 (945) 1111(大代表)

振替東京 8-3930

落丁本・亂丁本はお取りかえいたします
Printed in Japan

0395-106711-2253 (2)

(文1)

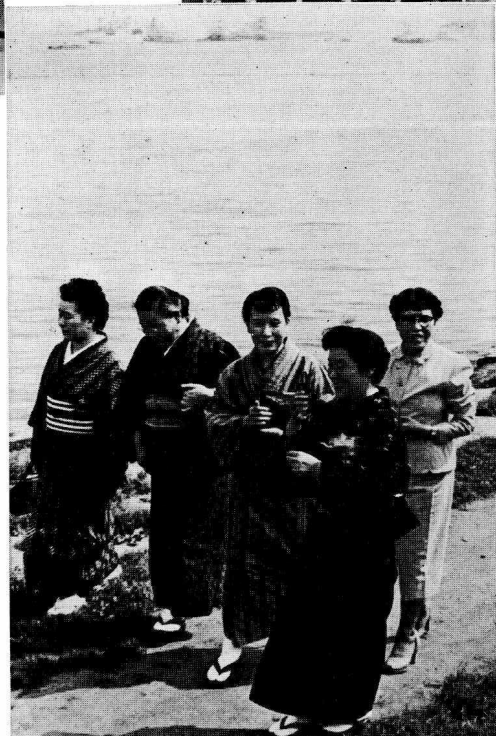


昭和四十年十二月十七日 宇野千代



→昭和十一年頃

←昭和二十二年 右から 佐藤敬 千代 三好達治



→昭和二十三年 濱離宮庭園にて 右から 吉屋信子 佐多稻子 千代 壺井榮 平林たい子



→昭和二十三年頃 箱根にて 右から 千代 森田たま 三宅艶子

↑昭和二十七年 箱根の三笠宮邸にて 手前 三笠宮御一家 向う右から 近市子 松田ふみ 藤川榮子 三宅艶子 千代

←昭和二十五年頃





昭和九年頃
青山の自宅にて
岡本かの子



←昭和四年十二月五日 渡歐出發の時 箱根丸船上にて 右から 太郎 かの子 一平

→昭和三年 青山の自宅書齋前にて 岡本一平 かの子夫妻と 長男 太郎



←昭和四年十二月 箱根丸船中にて 右から 新田龜三 恆松安夫 かの子 太郎 一平

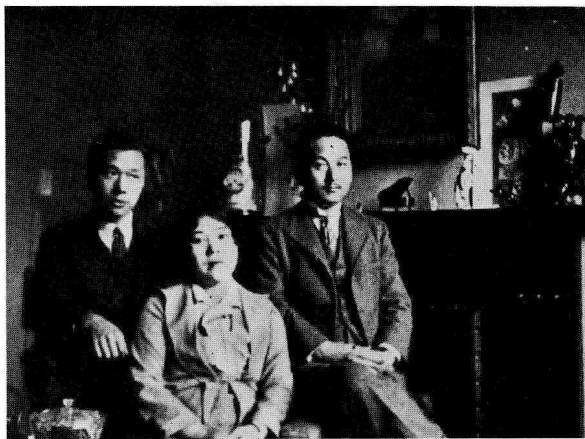


→昭和四年十二月 上海にて 右から 平タグラス・フェアバンクス 一人いて かの子 メリー・ビックフォード ←昭和五年 箱根丸船上にて 船客の子たちと共に 右から かの子 太郎



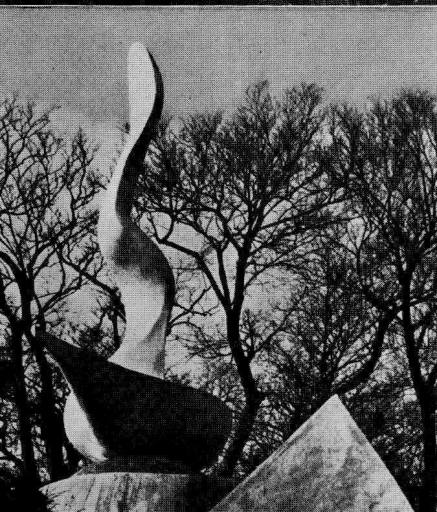
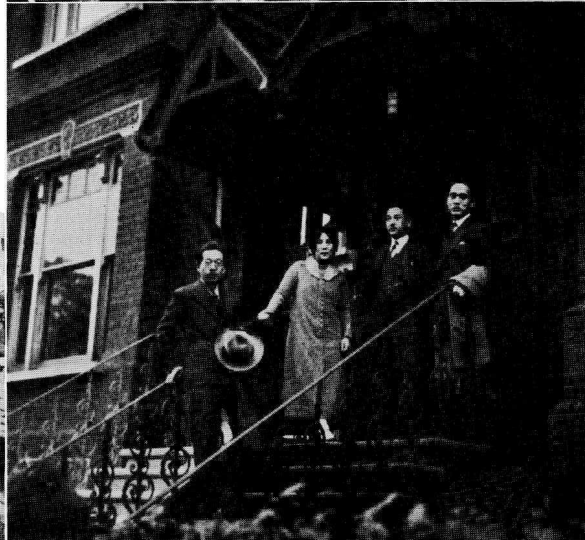


→昭和五年 ロンドン北郊 ハムステッド・
ヒースの家にて 岡本夫妻と太郎・



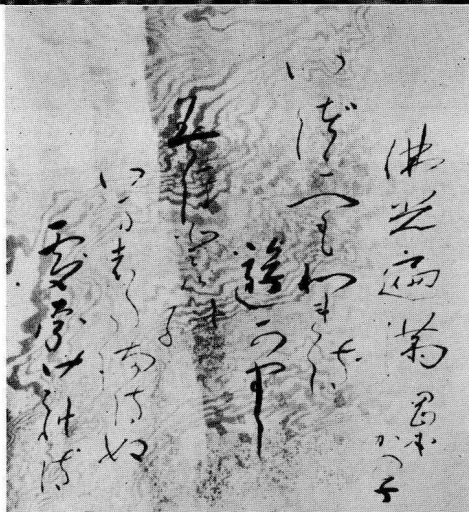
→昭和五年 ハムス
テッド・ヒースの
家の前にて 中央
岡本夫妻

↑昭和六年暮 雪の
日のベルリンにて
↓昭和十年頃 別府
にて 左端 岡本
夫妻



←多摩川畔のかの子の文学碑（岡本太郎制作
昭和三十七年十一月建立）

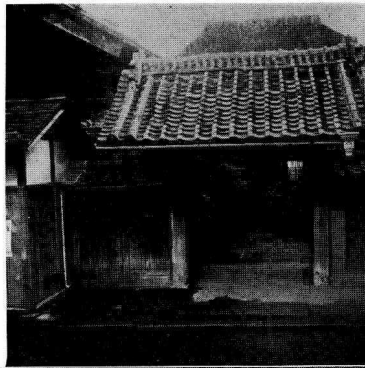
→かの子の筆蹟



→ 明治三十四年 小學校卒業記念
二列目左端 かの子



→ かの子の生家 大貫家



→ 明治四十年 右 かの子 左 妹 大貫きん
← 長男 太郎 慶應幼稚園へ入學の時 前列右
端 太郎 後列右 かの子 左 恒松安夫

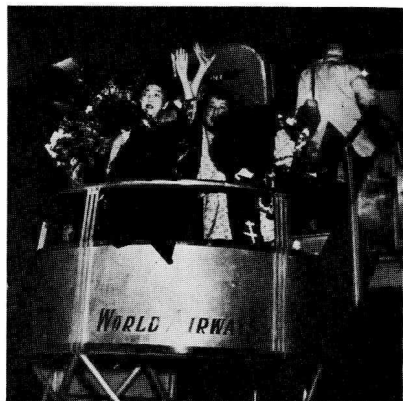


→ 太郎 慶應幼稚園二年の時 白金三光町の家
← 大正十一年頃





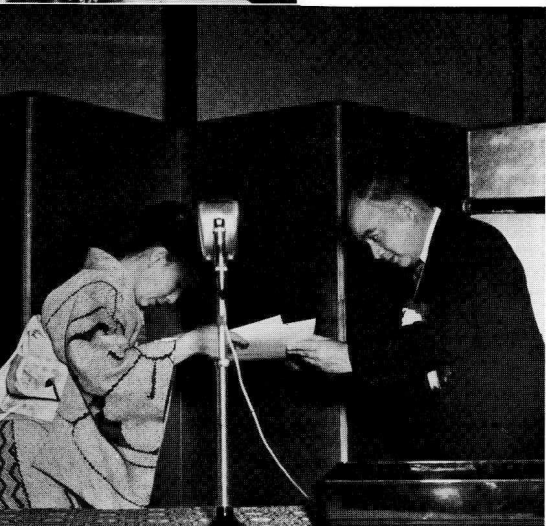
→昭和二十六年二月十日
時 右 千代 左 宮田文子
パリへ出發の



←昭和三十一年「おはん」出版記念會の際

↑昭和二十八年頃 祖母 佐伯みと

→昭和二十六年 パリにて



→昭和三十一年 アメリカ旅行の際 中央
←昭和三十三年十二月十七日 野間文藝賞授





→大正四年七月一日 岩國短歌會「海鳥社」會員と 前列右から二人目 千代
←大正十五年 大森にて 右から三人目 千代



→昭和二年 伊豆 湯ヶ島にて 右から 三好達治 千代



←昭和七、八年頃

→昭和六年 三宅やす子(左)と



宇野千代集 目次

卷頭寫眞

筆 蹟

作品解説……………龜井勝一郎 三六

宇野千代入門……………淺見 淵 三六

年 譜……………三六

參考文獻……………四二

色ざんげ……………七

人形師天狗屋久吉……………八

おはん……………二八

行 く……………四二

私の青春物語 抄……………四三

岡本かの子集 目次

卷頭寫眞

筆 蹟

雪……………二五

茶屋知らず物語……………二五

とと屋禪譚……………二七

健康三題……………二六

食 魔……………二五

渾沌未分……………二八

花は勁し……………二〇〇

金魚撩亂……………二二

快 走……………二五

東海道五十三次……………二五

老妓抄……………二四九

丸の内草話……………二六〇

鰯……………三五

家 靈……………三五

河明り……………三一

雛 妓……………三五

作品解説		龜井勝一郎	三六
岡本かの子入門		淺見 淵	三六
年 譜			四四
参考文献			四三

宇野千代集

アランの言葉

世にも幸福な人間とは

やりかけた仕事に

基いてのみ

考へて進めて行く

人間のことであらう。

宇野浩二